

能

伝統世界イメージ

福山誠之館高で鑑賞会



福山市木之庄町の県立福山誠之館高安西和夫校長で、能楽師による能の基礎講座と鑑賞会が開かれ、生徒や保護者ら計約1000人が伝統芸能の世界を味わった。

特別活動の時間を利用して実施。能楽喜多流シテ方の大島輝久さん(31)が、能の歴史や特長について説明した。腰を引いて前かがみになる姿勢や歩き方など特有の動作について、役によ

って違いがあるとし、「見る人に場面をイメージしてもらうのが能」を解説した。続いて、生徒らは大島さんの指導で、「能楽『高砂』」を踊った。生徒代表の4人は囃子方の手ほどきで、能管と呼ばれる横笛や太鼓などの演奏にも挑戦。悪戦苦闘しながらも、いい音が出た際には拍手がわいた。

最後に、喜多流シテ方の大島衣恵さん(32)らが、源平争乱期の武将・木曾義仲の側室・巴御前を題材にした能「巴」を披露した。能管の演奏を体験した2年、壬生実佳子さん(17)は「歴史の教科書などでしか知らなかった能を間近で体験でき、興味を持ちました」と話していた。

囃子方の手ほどきで太鼓に挑戦する生徒(県立福山誠之館高)